

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	マクロ経済学（Macroeconomics）		
ナンバリングコード	E20401	大分類／難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目／標準レベル 経済学
単位数	4	配当学年／開講期	2 年／前期・後期
必修・選択区分	選択必修:経営経済学部 コース選択必修:情報メディア学科 情報コミュニケーションコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E005701	クラス名	-
担当教員名	板倉 理友、明石 昭生		
履修上の注意、 履修条件	講義が進むにつれて、だんだんと難易度が高くなっていく構成になっています。予習や復習、課題提出などに積極的に取り組む姿勢が大事になってきます。また、教科書がないと授業についていけなくなります。演習問題でも教科書を使用するので必ず購入しておいてください。		
教科書	マクロ経済学 [第3版]入門の「一歩前」から応用まで 平口良司・稲葉大 有斐閣		
参考文献及び指定図書	参考文献は その他欄を参照してください。		
関連科目	経済学入門、ミクロ経済学、国際経済学、経済政策論、日本経済論		

○基本情報		
授業の目的	日々の経済ニュースが、以前よりわかるようになり、経済に興味を持てるようになるのが、この授業の目的です。そのために、教科書には経済ニュースなどでよく耳にする経済用語について、よく解説しているものを選びました。一通り学ぶことで、経済ニュースで登場するいろいろな経済指標（物価、金利、為替、GDPなど）の相互関係と、政府や日銀の経済政策が経済指標に与える影響について理解が深まると思います。また、教科書から学ぶだけでなく、金融の現場で仕事をしている企業の方々から学ぶ機会を設けています。リアルな金融現場の方の話を聞くことで、金融経済への興味関心をもってもらうことも目的の1つです。	
授業の概要	講義は、大きく4つのパートで構成されています。1つは1回から7回までの経済の基本を教科書に沿って学んでいくパートです。次は8回から15回までです。このパートでは、証券会社の方と教員で1コマずつ交互に講義を行っていきます。証券会社の方には、最新の経済統計や現場での指標の見方を中心に講義をしていただき、教員が次のコマで、その内容の経済理論について解説を加えています。次は、18回から25回までです。このパートは、プライベートバンカーの方と一緒に行いますが、これまでと違って、チームでの演習形式が中心になります。その他欄に演習の概要を記載しています。そして最後のパートが26回から30回までです。ここではマクロ経済学の理論モデルを基に、景気変動の安定化政策と経済成長のメカニズムについて分析を行います。また、最後の2コマは練習問題を解いてその解説を行います。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「グループワーク」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	大分労働局に所属して、地域の雇用に関する業務に携わってきました。	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	マクロ経済における景気、金利、為替、物価などのつながりに関心をもつ	10点	5点	
【知識・理解】	マクロ経済学の理論と日々の経済ニュースとのつながりが理解できる	40点	5点	
【技能・表現・コミュニケーション】	マクロ経済の動きを予測できるようになる	5点	10点	
【思考・判断・創造】	マクロ経済の動きを予測して投資リスクを判断できるようになる	5点	10点	10点
○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)				
期末試験の結果とレポート課題、そして中間試験によって評価します。 成績評価基準 S:授業の到達目標に対して高い水準で達成できている A:授業の到達目標を達成できている B:授業の到達目標を概ね達成できている C:授業の到達目標の最低水準は達成できている レポート課題は、次回以降の講義中に好評と解説を行います。				

○その他
【授業計画】 講義内容については、学習の習熟度などに応じて内容を変更する場合があります。 企業との連携講座の内容および日程は、変更になる場合もあります。 【チーム演習について】 チームごとに資産運用のポートフォリオを組みます。例えば、仮に資産が1,000万円あったとして、収益を最大にするために株にいくら、日本国債にいくら配分するなどということを決定します。そして、近年の経済史に沿って、市場に混乱が生じたとき、どのように資産配分を切り替えるかについてチームで検討し、収益の再計算を行います。これを何回か繰り返して、最終的な収益が高かったチームを選出します。そして収益が高かったチームの戦略や判断、経済指標の見方について皆で共有して学びを得ます。座学で学んだマクロ指標の知識を使って、資産運用のシミュレーションを行うことで経済リテラシーの養成や興味関心を持つことが目標です。 【参考文献】 滝川好夫著 海星なび 『マンガでわかるマクロ経済学』 2023年9月25日初版発行 ISBN:978-4-405-10428-0 この本は、マンガ形式にはなっていますが、滝川先生という有名な先生が書かれている本で内容がしっかりしています。本の内容は、高校の投資クラブのメンバーが、天才トレーダーの主人公の高校生とマクロ経済学を学ぶことで、経済の先読みができるようになっていく成長物語です。これを一通り読むとマクロ経済学の力が自然と身につくと思います。 ケインズ原作 『まんがで読破 雇用・利子および貨幣の一般理論』 イースト・プレス 2016年10月9日第2刷 ISBN:978-4-7816-1338-3 この本もマンガですが、マクロ経済学の生みの親であるケインズを主人公とした物語を、これだけとっつきやすく書いている本を他に知りません。ケインズという人物とマクロ経済学のルーツを知る上で最初に読んでほしい一冊です。

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科 目 名 担当教員	マクロ経済学（Macroeconomics） 板倉 理友、明石 昭生	授業コード	E005701
学修内容					
1. マクロ経済学への導入(1)					
マクロ経済学ではどのようなことを学ぶのかについて、ミクロ経済学と対比しながら説明します。また、マクロ経済学に登場する登場人物(企業、家計、政府・中央銀行)の役割について解説します。【教科書:序章】					
予習	教科書の該当するところを読んでください。				約2時間
復習	教科書の章末にあるEXERCISE(練習問題)に取り組んでください。				約2時間
2. マクロ経済学への導入(2)					
市場で価格や取引量はどのように決まるのかについて考えます。また、経済学では何かの値が、時間の経過とともにどれくらい変化したのかということを重視します。ここでは、物価や所得などが、どれくらい変化したのかという「変化率」の計算について学びます。【教科書:序章】					
予習	教科書の該当するところを読んでください。				約2時間
復習	教科書の章末にあるEXERCISE(練習問題)に取り組んでください。				約2時間
3. マクロ経済学を観察するⅠ(1)					
マクロ経済学で学ぶ最初の重要な概念にGDP(国内総生産)があります。このGDPの測り方として「三面等価の原則」というものを学びます。これは、今後マクロ経済モデルを考えるときの出発点になるとも大切な考え方です。【教科書:第1章】					
予習	教科書の該当するところを読んでください。				約2時間
復習	教科書の章末にあるEXERCISE(練習問題)に取り組んでください。				約2時間
4. マクロ経済学を観察するⅠ(2)					
GDPを算出するときの様々な決まりについて理解します。そして名目GDPと実質GDP、GDPデフレーターというニュースでもよくでくる指標について、その計算方法を習得します。【教科書:第1章】					
予習	教科書の該当するところを読んでください。				約2時間
復習	教科書の章末にあるEXERCISE(練習問題)に取り組んでください。				約2時間
5. マクロ経済を観察するⅡ					
「物価」、「労働」、「景気」の3つの経済指標について学びます。特に重要な指標は、消費者物価指数です。消費者物価指数の計算方法について時間をかけて学ぶことで習得を図ります。【教科書:第2章】					
予習	教科書の該当するところを読んでください。				約2時間
復習	教科書の章末にあるEXERCISE(練習問題)に取り組んでください。				約2時間
6. 財政の仕組みと機能					
財政の機能全般にについて学びます。特に4節の「国債」と「基礎的財政収支」、そして5節の「政府の債務累積」について重点的に解説します。身近な税や政府の財政政策に関心が持てるようになることが目標です。					
予習	教科書の該当するところを読んでください。				約2時間
復習	教科書の章末にあるEXERCISE(練習問題)に取り組んでください。				約2時間
7. マクロ経済を支える金融市場					
マクロ経済における金融市場が果たす役割について学びます。また、重要な概念として「金利」がでできます。単利と複利の考え方の違いを理解して計算手法を習得します。【教科書:第3章】					
予習	教科書の該当するところを読んでください。				約2時間
復習	教科書の章末にあるEXERCISE(練習問題)に取り組んでください。				約2時間
8. 企業との連携講座(1)					
証券会社の方を講師にお招きして、「経済と金融の基礎知識」について講義をしていただきます。					
予習	教科書の第3章を読んでください。				約2時間
復習	講義内容のポイントについて整理をして理解できるようにしてください。				約2時間

○授業計画		科目名 担当教員	マクロ経済学（Macroeconomics） 板倉 理友、明石 昭生	授業コード	E005701
学修内容					
9. 振り返り講義（1）					
前回の企業との連携講座（1）の内容について復習を行います。特に、講座内容をより深く理解する上で大事な経済理論を中心にを行います。具体的には、教科書の第3章の短期金利と長期金利の関係、そして利回りの計算方法について学びます。この内容は、次回講義の予習にもなっています。					
予習	教科書の該当するところを読んでください。（第3章3節）				約2時間
復習	教科書の章末にあるEXERCISE（練習問題）に取り組んでください。				約2時間
10. 企業との連携講座（2）					
証券会社の方を講師にお招きして、「債券市場の役割と投資の考え方」について講義をしていただきます。					
予習	教科書の第3章3節について復習しておいてください。				約2時間
復習	講義内容のポイントについて整理をして理解できるようにしてください。				約2時間
11. 振り返り講義（2）					
前回の企業との連携講座（2）の内容について復習を行います。特に、講座内容をより深く理解する上で大事な経済理論を中心にを行います。具体的には、教科書の第4章「貨幣の機能と中央銀行の役割」について学び、中央銀行の金融政策の理論についての理解を深めます。					
予習	教科書の該当するところを読んでください。（第4章）				約2時間
復習	教科書の章末にあるEXERCISE（練習問題）に取り組んでください。				約2時間
12. 企業との連携講座（3）					
証券会社の方を講師にお招きして、「外国為替相場とその変動要因」について講義をしていただきます。					
予習	教科書の該当するところを読んでください。（第9章2節）				約2時間
復習	講義内容のポイントについて整理をして理解できるようにしてください。				約2時間
13. 振り返り講義（3）					
前回の企業との連携講座（2）の内容について復習を行います。また教科書の第9章「国際収支・為替レートとマクロ経済」の第3節の「金利平価」という重要な経済理論について解説します。					
予習	教科書の該当するところを読んでください。（第9章3節）				約2時間
復習	教科書の章末にあるEXERCISE（練習問題）に取り組んでください。				約2時間
14. 企業との連携講座（4）					
証券会社の方を講師にお招きして、これまでのまとめも含めて「証券会社の仕事」について講義をしていただきます。					
予習	金融業界における証券会社の役割や仕事内容等について調べておいてください。				約2時間
復習	次回講義では、これまでの講義内容についてレポートを課すので、全体的な復習をしておいてください。				約2時間
15. 振り返り講義（4）					
企業との連携講座のなかでもでてきた「インフレとデフレ」について教科書の第8章を解説します。特に、第2節の実質金利と名目金利、そして期待インフレ率というとても重要な考え方について理解を深めます。					
予習	教科書の該当するところを読んでください。				約2時間
復習	企業との連携講座（8回から15回までの計8回講義）についてのレポートに取り組んでください。				約2時間
16. 資産価格の決まり方					
株式などの資産価格はどのように決まるのかについて理論的に考察を行います。いわゆるプライシング理論というものです。ここでは、割引現在価値という重要な考え方を習得します。【教科書：第11章】					
予習	教科書の該当するところを読んでください。				約2時間
復習	教科書の章末にあるEXERCISE（練習問題）に取り組んでください。				約2時間

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科目名 担当教員	マクロ経済学（Macroeconomics） 板倉 理友、明石 昭生	授業コード	E005701
学修内容					
17. 次回(18回)からの企業との連携講座の事前準備					
これまで学んできた様々な経済指標間の関係について整理します。そして、個人の資産運用におけるポートフォリオ理論について解説を行います。最後に、18回講義のときのチーム編成を行います。					
予習	これまで学んだ経済指標（GDP、物価、金利、為替、株価、国債）について復習をしておいてください。				約2時間
復習	中央銀行が行う金融緩和政策が金利と為替レートに及ぼす影響について復習をしておいてください。				約2時間
18. 企業との連携講座(5)					
プライベートバンカーの方を講師にお招きして「リーマンショック時におけるポートフォリオシミュレーション体験」を行います。この講座では、17回講義で編成したチームごとにわかれて、チーム対抗のポートフォリオ組成体験を行います。詳細は、その他欄を参照してください。					
予習	リーマン・ショックとはどのような金融危機であったのかについて事前学習をしておいてください。				約2時間
復習	振り返り動画の視聴とレポートを提出課題として出します。				約2時間
19. 振り返り講義(5)					
前回の企業との連携講座(5)の内容について復習を行います。上位チームの戦略的な成功要因について考察を行い、振り返りレポートに基づく疑問点などについても解説を行います。また、金融政策の経済理論として、教科書の第9章3節と4節を学習します。					
予習	前回講義の振り返り動画を視聴しておいてください。				約2時間
復習	教科書の第9章3節と4節を参考に、リーマンショックにおける理論分析のレポート課題を出します。				約2時間
20. アベノミクス政策効果シミュレーション					
近年の重要な経済史の1つとして前回までは、リーマンショックについて学びました。この回では、リーマンショックの後の重要な経済史の1つであるアベノミクスについて学びます。アベノミクスの概要説明後、前回と同じチームにわかれて、2回目のチーム対抗のポートフォリオ組成体験を行います。これまでの知識と経験の定着を図ります。					
予習	政府支出拡大の効果、クラウドニング・アウトについて予習する。				約2時間
復習	アベノミクスの解説動画の視聴とレポート課題を出します。				約2時間
21. GDPと金利の決まり方					
これまで為替や金利、株価などの個別指標の決定理論について学びましたが、この回ではマクロ経済全体の理論モデルを学びます。マクロ経済を構成する財やサービスの市場と貨幣市場を合わせた理論モデルを学ぶことで、これまでの講義内容をより深く理解できるようになります。【教科書：第6章】					
予習	教科書の該当するところを読んでおいてください。				約2時間
復習	レポート課題を出します。				約2時間
22. 企業との連携講座(6)					
プライベートバンカーの方を講師にお招きしてコロナ禍における実践的投資指標分析などについて講義をしていただきます。新型コロナウイルスによる経済への影響は、コロナショックといわれ、アベノミクスに続く近年の重要な経済史の1つです。					
予習	2020年から21年にかけての経済指標（株価、金利など）や政府や中央銀行の経済政策について調べておいて				約2時間
復習	講義内容のポイントについて整理をして理解できるようにしてください。				約2時間
23. 地政学リスクと金融市場					
近年の重要な経済史として、コロナ禍以降の、世界的なインフレ、そしてアメリカの相互関税などがあります。ロシア・ウクライナ紛争から現在までの金融市場における経済指標の変化について理解を深めます。					
予習	なぜ世界的なインフレが起きたのか。その理由について調べておいてください。				約2時間
復習	次回、理解度確認テスト行います。これまでの講義内容のポイントについて学習しておいてください。				約2時間
24. 理解度確認テスト					
企業との連携講座（18回から23回までの計6回講義）の内容について理解度確認テストとレポート作成を行います。そして最後に、次回(25回)の準備として、これまでのグループごとに、プライベートバンカーの方への質問を作成します。					
予習	理解度確認テスト行います。これまでの講義内容のポイントについて学習しておいてください。				約2時間
復習	理解度確認テストの解答をみて復習をしてください。				約2時間

○授業計画		科 目 名	マクロ経済学（Macroeconomics）	授業コード	E005701
		担当教員	板倉 理友、明石 昭生		
学修内容					
25. 企業との連携講座(7)					
プライベートバンカーの方を講師にお招きしてプライベートバンカーの業務や金融業界で働くときのキャリア形成などについて講義をしていただきます。また、前回(24回)準備した講師への質問を各チームの代表にしてもらいます。					
予習	プライベートバンク社長のインタビュー動画の視聴				約2時間
復習	講義内容のポイントについて整理をして理解できるようにしてください。				約2時間
26. 総需要・総供給分析(1)					
前回までの企業との連携講座では、主に近年の日本経済史の転換点における金融市場の反応(経済指標の変化)に着目して、個人資産の最適なポートフォリオを組むシミュレーションを行いました。この回から28回までは、国のGDPに着目した分析を行います。まず、世の中の物価とGDPとの関係を表す総需要曲線の導出を行います。【教科書:第7章】ただ、必要に応じて教科書の第6章に戻りながらじっくりと内容の理解を深めていきます。					
予習	教科書の該当するところを読んでおいてください。				約2時間
復習	教科書の章末にあるEXERCISE(練習問題)に取り組んでください。				約2時間
27. 総需要・総供給分析(2)					
前回の続きで、物価とGDPの関係を表す総供給曲線の導出を行います。そして総需要曲線と総供給曲線から市場における均衡物価水準と均衡GDPを求めます。また政府や日銀の経済政策により、均衡点がどう変化するかについても理解できるようにします。【教科書:第7章】					
予習	教科書の該当するところを読んでおいてください。				約2時間
復習	教科書の章末にあるEXERCISE(練習問題)に取り組んでください。				約2時間
28. 経済が成長するメカニズム					
GDPが拡大するメカニズムについて学習します。ここでは、ロバート・ソロー(1987年にノーベル経済学賞を受賞)の経済成長モデルについて考察を行います。また経済成長における技術進歩の貢献度を測る上で重要な成長会計についても学びます。					
予習	教科書の該当するところを読んでおいてください。				約2時間
復習	指定するEXERCISE(練習問題)に取り組んでください。				約2時間
29. まとめ(1)					
教科書の章末にあるEXERCISE(練習問題)のなかから特に重要な練習問題について演習およびその解説を行います。					
予習	指定するEXERCISE(練習問題)に取り組んでください。				約2時間
復習	演習解説を行った問題について解けるように復習しておいてください。				約2時間
30. まとめ(2)					
教科書の章末にあるEXERCISE(練習問題)のなかから特に重要な練習問題について演習およびその解説を行います。					
予習	演習解説を行った問題について解けるように復習しておいてください。				約2時間
復習	演習解説を行った問題について解けるように復習しておいてください。				約2時間
31. 期末試験					
筆記試験をおこないます。					